

## 研究論文

## 建築家；Josep Ma. Jujol y G./1879-1949, に関する建築調査研究(Ⅰ)

—スペイン・カタロニアにおける J.Ma.ジュジョールの宗教建築空間に関する考察—

木下 泰男

北翔大学北方圏学術情報センター

## 抄 録

本研究は19世紀から20世紀初頭にかけて建築分野の牽引役を果たした建築家 J.Ma. ジュジョールに焦点を当てたものである。当時は、スペイン・カタロニア地域にて芸術運動が展開された“カタロニア・モデルニスモ”の時代であり、彼は A. ガウディの円熟期の作品を担い時代を駆け抜けた建築家といえる。本研究は、彼による特色のある主要な宗教建築空間と、その造形力に貫かれている姿勢と、建築の生成過程の一端について論述した。

この調査は1989年から1991年、2000年、2010年と現地調査を重ねてきた研究成果の一部をまとめたものである。

キーワード：ジュジョール、カタロニア・モデルニスモ、A. ガウディ、ノウセンティスモ、カタロニア・アルキテクト、

## Ⅰ. 背景と目的

## 1. はじめに

スペインの北東部、カタロニア地域の地中海沿岸は、ローマ支配の時代より発展してきた。

カタロニア地域の北部は、ピレネー山脈に抱かれ、フランス国境と接し、独特なカタラン文化圏を形成していた。

ヨーロッパにおける19世紀後半から20世紀初頭は、産業革命と経済産業の急速な発展をみた時代である。カタロニアの中心都市バルセロナも例外ではなかった。

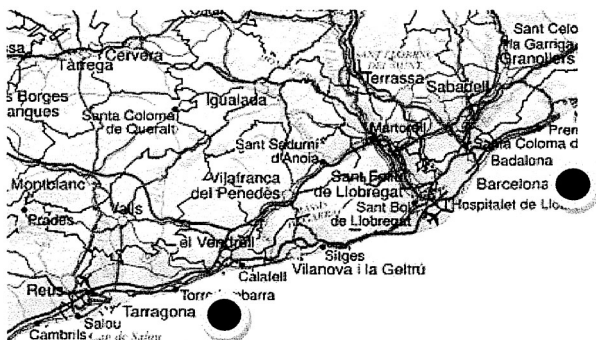


図-1) Cataluña Mapa (Mar Mediterràned);  
Barcelona-Tarragona, 出典: Catalunya kannkou.com

ブルジョワジーにとっての富の象徴を建築意匠に贅を示す絶好の機会であり、都市の急速な成長に潤沢な経済力が貢献した。

この時代にカタロニア主義の再興が図られ、政治的指針と相まって文芸復興(レナイスンシア)がおこった。その芸術文化が創造するスタイルを「カタロニア・モデルニスモ」と呼ぶ。

諸外国に平行したものとして、フランスでは「アール・ヌーヴォー」、イギリスでは「モダン・スタイル」、オーストリアでは「セセッション」、ドイツでは「ユーゲント・スタイル」、イタリアでは「リバティ」などまさに躍動的なムーブメントが展開された時代であった。

カタロニアの建築に於いて、歴然たる独創的な建築創作活動を行った巨人建築家：A. ガウディ C. (1852-1926)のことは誰しも周知のことであろう。また、その一翼をになった工匠建築家にリュイス・ドメネク・イ・モンタネール(1849-1923)がいた。さらに時代はノウセンティスモ(；エウジェニー・ドルスは新たな文化活動におけるモデルニスモに「地中海的で古典的な秩序」と定義した。)運動にも移行して行った。

カタロニア・モデルニスモの時代からノウセンティスモの時代へ移る狭間の混沌とした背景の中、本研究でとりあげる建築家が J.Ma. ジュジョール・イ・ジーベ

ルト(1879-1949)である。J.Ma. ジュジョールは、A. ガウディの円熟期の作品の表層部分を担い、以降のガウディ作品に変化と影響を与え、J.Ma.ジュジョールは自らの建築創作活動に自由闊達な表現力をもって活躍するのである。

その中で、創作された主な宗教空間はバルセロナの都市から離れた地方で展開されている。そこは、地域に密着した生命の建築空間として彼の建築創作思想の構築に寄与し、彼の作品の中で重要な意味を示している。



写-1) Antonio Gaudí Cornet/写-2) J.Ma.Jujol y Gibert

出典：『Antoni Gaudí』Xavier Güell,1986,GG,p2

出典：『77.JUJOL』J.Bassegoda N., Caixa,1990, p36

## 2. 研究の目的

J.Ma.ジュジョール自身の建築への思いと夢が盛り込まれる設計思想の流れを、日常信仰としての存在の宗教(教会堂)空間を通して探ること。J.Ma.ジュジョールの主な作品に着目し、年表にまとめ、どのような設計思想が醸成されたのか明らかにする。

信仰心の厚いカタルーニャ人、カトリック信徒の多いこれらの地方地域住民の思いが、建築家 J.Ma.ジュジョールにどのような創作感情を醸成させたかについて明らかにすること。

そして、主な建築作品の設計生成過程と姿勢の一端を読みとることで、J.Ma.ジュジョール自身の設計思想に関わる建築造形に住民の信仰心が深く関与していることを明らかにする。

## II. J.Ma.ジュジョール年譜

### 1. J.Ma.ジュジョール・作品年譜

表-1. J.Ma.ジュジョール年表(1879-1949)

1879年 9月16日	バルセロナ近郊タラゴナで出生
1897年(18歳)	バルセロナ大学・科学部入学 バルセロナ建築学校予備課程入学
1901年(22歳)	バルセロナ建築学校本科入学 A.Ma.ガリッサ建築事務所勤務

1904年(25歳) A.ガウディより「バルマ・デ・マジョルカのカテドラル」修復参加依頼を受ける

1905年(26歳) 「カサ・パトリヨ」ファサード A.ガウディとの初共同参画/-07年 (Barcelona)

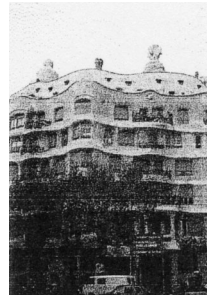


写-3) Casa Batlló\* ; A.Gaudí+J.Ma.Jujol

1906年(27歳) バルセロナ建築学校卒業

建築家タイトル取得

「カサ・ミラ」内装 A.ガウディと共同参画/-11年 (Barcelona)



写-4) Casa Milà\* ; A.Gaudí+J.Ma.Jujol

1907年(28歳) ゴシック地区再建計画案 A.ガウディと共同参画 (Barcelona)

「バルケ・グエルの広場下列柱モザイク・メダジョン+湾曲ベンチ破碎モザイク」 A.ガウディと共同参画/-14年 (Barcelona)



写-5) Parque Güell\* ; A.Gaudí+J.Ma.Jujol

1908年(29歳) 「メトロ・ボール劇場」増改築

(Tarragona)

1909年(30歳) 「バルマ・デ・マジョルカのカテドラル」修復参加/-10

1910年(31歳)	「パリ・ガウディ展のためのサグラダ・ファミリア教会贖罪聖堂」石膏モデル彩色。 バルセロナ建築学校教員就任
1911年(32歳)	「マニヤック店舗」 (Barcelona)
1913年(34歳)	「トーレ・デ・ラ・クレウ」 /-16年 (Sant Joan Despí)
1914年(35歳)	「カサ・シメニス」 (Tarragona) 「カサ・プファイユ」 /-31年 (Els Pallaresos)
1915年(36歳)	「カサ・ネグレ」 /-41 (Sant Joan Despí)
1916年(37歳)	「マニヤック工場」(現在 EIP 初等教育学校改築) (Barcelona) 「カサ・ブラネイス」計画案 (Barcelona)
1918年(39歳)	「ビスタブージャの教会堂」 /-23年 (Vistabella)
1923年(44歳)	「カサ・ブラネイス」 (Barcelona) 建築家; L.Domenech I M.逝去
1926年(47歳)	「モンセラット教会堂」 /-30年, 1999年再建 (Montferri) 建築家; A.ガウディ C.逝去
1927年(48歳)	「バルセロナ万博・スペイン広場噴水モニュメント」 /-28年 (Barcelona) T.ジーベルト・イ・モセラと結婚
1928年(49歳)	イタリア旅行
1932年(53歳)	「ジュジョール邸」 (Sant Joan Despí)
1942年(63歳)	「プラサ・デ・ピーの教会堂」バラ窓・祭壇改修 (Barcelona)
1943年(64歳)	「コロニア・グエル地下聖堂」祭壇照明インテリアデザイン/-48年 (Santa Coloma de Servelló)
1949年(70歳)	5月1日バルセロナにて死去 (建築家: J.Ma.Jujol に関する建築調査研究-1)

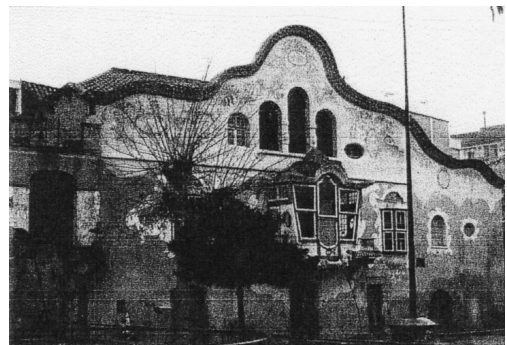
### Ⅲ. 宗教建築作品

#### 1. Casa Negre(1915): 改修+修復, Sant Joan Despí, Barcelona, Cataluña

サン・ジョアン・デスピは1910年当時町の人口は1,000人規模で街形成の初期にあたる。教区教会堂(Parroquia Sant Juan Bautista)が中心街に位置し、そこから1区画離れたところに、カタロニア伝統の民家「マシア」を集会堂に改修した「カサ・ネグレ」が広場

の一部を形成している。J.Ma.ジュジョールは、その2年前には叔母の依頼でこの町に別荘を新築設計している。

作品「カサ・ネグレ」の特筆は、ファサードの軒蛇腹(コーニス)やトリビュン(Tribune: 前方に張り出す2階空間)と鉄筋の脚が左右に大地に踏ん張っている造形である。外壁面の土色のベースに白いスグラフィド(Sgraffito: 外壁を2層に塗り分け上塗りを引掻き落した凹凸仕上げ)の造形表現にまず驚かされる。J.Ma.ジュジョールが既存の建築をどのように建築家の土俵に引き寄せ、いかに地域住民の愛着を持たせられるかの試みへの想いが何故か微笑ましく感じられる。「マシア」自体はマッスのきいた小さな開口部を持ち、スペイン瓦の寄棟屋根の下に最大限の内部活用を意識し、素材そのままの外壁に覆われた伝統的民家だから、おそらく、建築に表情を与えたかったに違いない。伝統的な信仰モチーフを用いなくて新たな宗教施設のファサード(: 正面入り口の立面)表層を試みようとした取り組みは、当時において現代美術を融合する J.Ma.ジュジョール表現といえる。



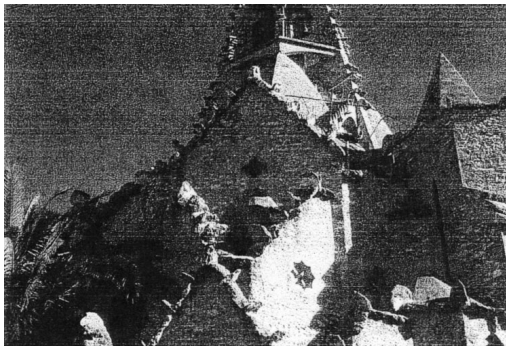
写-6) Casa Negre\*; Solo J.Ma.Jujol

ところが、2階内部へ足を踏み入れるとその表現手法に驚かされる。バロック的古典表現の金彩色に加え極彩色を過激なまでに施した室内礼拝堂は、ファサードとは対照的な空間造形がなされている。一見、突拍子もなく受け取られるかも知れないが、おそらく地域住民が集会場に来て、玄関をくぐる手前の様々な心情と信仰へのアプローチを促そうとする一つの空間の表現手法と考えられる。「カサ・ネグレ」は地域住民にとってのコミュニティ空間として現在も地域づくりに貢献し、サルダーナ(: カタルーニャ民族舞踊)など前の広場で見ることができ、高齢者たちの憩いの場になっているようだ。

## 2. Iglesia de Vistabella (1918-23) : 新築, Vistabella, Tarragona, Cataluña

別称は Iglesia de Sagrat Cor ともよばれる。Vistabella は交差路に密集する集落を形成している。人口は152人(2008年)。

農業耕作の規模の小さな集落で建設当時の村民にとって、自分たちの教会堂建設への願いが叶ったようだ。小さな集落に教会がなく、地域としての教区教会堂へ通わなくてはならなかったことを思うと建設は念願であり、生活信仰への慶びに繋がったのかも知れない。



写-7) Iglesia de Vistabella\* ; Solo J.Ma.Jujol

集落にとっての念願の教会堂建設は、耕作畑にまぎれる大きな石がその建設の骨材料に用いれた。小さな集落にとって、この土地に根差す小規模ながらの教会堂は、住民の協働によってもたらされるものだという意思に、J.Ma.ジュジョールは答えたかったに違いない。

大地から生まれた石は、笠木・鋸梁(きよだ)に差し込まれて印象深くしている。「カサ・ブファイユ」(1914-31)の洗濯場のパーゴラに鋸梁(きよだ)石の表現手法が既にみられる。

躯体壁にも、埋め込まれた石が顔を覗かせている。

この教会堂の興味深いところは、ほぼ正方形に近いプランの対角上に身廊の柱を配置し、リブ・アーチ・ヴォールトを懸けている点だ。身廊空間は、クーボラ・ドームが1/4の接合線を形成するカタルーニャ独特の薄煉瓦にて構築されている。

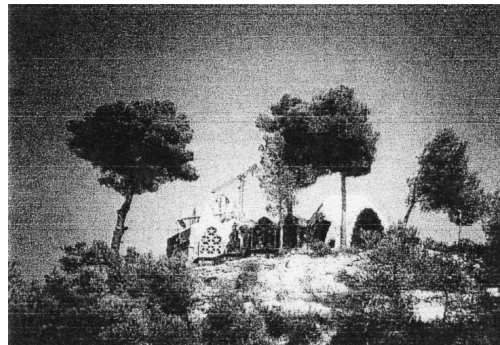
内部はハンドメイドのインテリア製品が数多く備えられている。また、内壁には様々な壁画が表現されている。ブルーとホワイトを基調に、葡萄と蔓・鷺・稲穂・白雲・など造形力豊かに描かれている。ジュジョールは「スペイン内戦」(1936)がこの田舎の村にも及ぶことを恐れ、アナグラム・サイン(Anagram Sign: 文字単語などの絵文字化)などをカタラン語表記ではなく英語表記などに書き換えした。現在もその一部が残っている。厚い壁と少ない小さな開口部はゴシック・スタイルに近

い印象を持ち、自然採光の緩やかな光が差し込んでいる。

現在、信仰行事のほか集落行事の拠点的活用がなされているようだ。

## 3. Iglesia de Montferri (1926-) : 未完・再建, Montferri, Tarragona, Cataluña

別称；Santuario de Montserrat とも呼ばれる。モンフェリー集落は一本道沿いに線状集落を形成し、建設当時の人口は430人余であったが、周辺集落の中心的集落であった。近年は過疎化が進んでいるようだ。集落には教区教会の役割として「Sent Bertomeu 教区教会堂」が鐘楼を備え現在も健在である。モンフェリー集落にとって、悲願であった自分たちのための教会堂の構想が1926年に J.Ma.ジュジョールによって開始された。この年 A.ガウディが死去。



写-8) Iglesia de Montferri\* 1990~再建 ; Solo J.Ma.Jujol

1989年迄、教会堂は建設中途の遺構の形で放置されひっそり佇んでいた。

カタルーニャの伝承の聖母マリア像は黒く、膝の上にキリストが抱かれた姿をとっている。教会堂は街に近接せず、果樹耕作地の小高い松の木林に囲まれた丘陵に位置している。この建設に当たっては「ヴィスタベリャ教会堂」同様に、集落民の協働によって支えられていた(二人の煉瓦職人労働力のみではあるが)。組積は手作りのコンクリート・ブロック(10×15×30cm)で積み上げられている。軽量化を図るため4km離れたサロモ駅の石炭コークス殻を混入し用いられ、壁はもとより柱・リブ・アーチ・天井ドームなど、コンクリート・ブロックを組み合わせたバリエーションに富んだ42本の列柱に支えられた。平面は5身廊の小さな礼拝堂でパラボリック・アーチとリブによって天井が構成されている。後陣・身廊・ポर्टィコに構成され、それぞれ3つの塔に鐘楼が掲げられる。内部には、ふんだんにトレーサリー採光が注ぎ、光の教会堂のイスラム(ムデハール)様式の手法を引用してカタルーニャ建築の伝統との融合を考えた構想

が伺える。

「ヴィスタベリヤ教会堂」とは逆に人工ではない自然の光量を手に入れたかったのではないだろうか。

外観はカタルーニャの聖山のモンセラをモチーフに、幾つもの奇岩が載って、更なるトップライトの効果が検討されている。

教会堂の後陣は丘陵から突出し、全体のシルエットはあたかもタラゴナの海へ船出するかのように見える。エスキスには、塔の風見に帆船のメタルワークが施される。

南面はメッシュに吹き付けられた薄板のうねった塀で囲まれる計画であった。ほぼ5年間の建設であったが、ジュジョールの思いと夢は完成には至らなかった。

最後の教会堂建築となることへの思い入れは様々な部分表現にみてとれる。

この教会堂に真に込めたかったものは、母なる生命力そのものの表現ではなかったか。モンセラ聖山の姿と人体細胞壁のリアリティがオーバーラップする。タラゴナに近接するヴァレンシア地域では、ファジャスの祭典には型を用いて人形を市民で作り、最終日に炎に包まれ神事のフィナーレとする。

その宗教行事に培われ脈々と伝統的に引き継がれてきた単純な人形製作型手法を根拠に、J.Ma.ジュジョールの理解を加えると、教会堂の外形は母なる胎内の内壁細胞の反転表現である。型と版の反転関係が建築造形に反映されたものと考えることができる。この建築の外観に胎内壁の写しが表現され、教会堂内は体内空間の象徴と考えられる。

#### IV. 別表一 覧

J.Ma.ジュジョールの3つの宗教建築作品「カサ・ネグレ」・「ヴィスタベリヤの教会堂」・「モントフェリーの教会堂」の表現特徴および、J.Ma.ジュジョールがA.ガウディの宗教建築作品に参画した3つの「パルマ・デ・マジョルカのカテドラルの修復」・「サグラダファミリア贖罪教会聖堂」・「コロニア・ゲエル地下聖堂」の表現特徴を一覧に集約した。

表-2.「スペイン・カタロニアにおける建築家：J.Ma.J. yG.の主な宗教空間表現の特徴的観点一覧表」（本論文最後に添付）

#### V. ま と め

ジュジョール作品の多くは、バルセロナの市街地より作品の数多くが地方での建築を余儀なくされた感否めない。しかしながら、厳しくなった社会経済を背景とす

るなか、決して建築創作の意義を見失わなかったと考えられる。

そのジュジョールの精神的な励みに寄与した設計活動の幾つかが、本論で取上げた地方での宗教建築の3つではなかっただろうか。そして、建築の精神性思想としての生命のリアリティを受け止める在り方と合致したのではないか。今まで2極性表現から生まれるものの意識に、建築の前面には表現されない内的思想の考え方が醸成されたジュジョールにとって、建築に内包された考え方の展開構築が重要な出来事ではなかったのではないかと考えている。

主な作品として挙げた3作品は小品だけに特徴が輝いている。地域住民の信仰の接点と表現力は空間と合致し、素朴でリアリティがあり、集落地域と人との一体化が汲み取れる。地域に根差した宗教空間は現在もなお地域コミュニティの場として、或いは信仰による安寧を求める場として活用されている。それは何なのか、ジュジョールの建築姿勢や生成過程に流れている重要な生命感なのではないだろうか。何をもってそう考えるのかだが、ジュジョールには手の痕跡の表現が不思議と登場してくるのである。そして完結途中(可能性の途中)に感じられることが実に多い。意識的かそうでないかは想像するしかない。作品が、現代の芸術感覚を持ち合わせている点で、彼が生きた時代であるモデルニスモの時代にあって、特異で傑出する洞察を持ちえているのではないだろうか。時代より早すぎるとさえ感じられる。

この点は、A.ガウディの造形力とは決定的に違う。

その造形力に貫かれている姿勢と建築の生成過程の一端について論述することができた。

そのように考えると、本論で取上げた3つの宗教建築のどれかに関連対応する建築が、ジュジョールの建築思想を決定づけているような建築作品が他に幾つかある可能性が浮かび上がってくる。

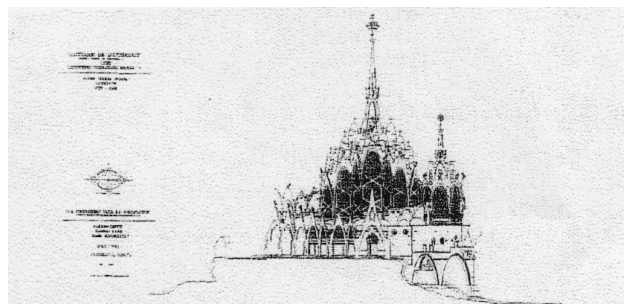


図-2) Iglesia de Montferri, 1926, J.Ma.Jujol

(Survey+Drawing, 1m×2m: Y.Kinosita/1991, Barcelona)

【終稿】

## 付記

この稿を書くにあたり「UIA2011TOKIO 大会」の関連企画でカタルーニャ・バレスアス建築家協会の共催を得た。

スペイン・バルセロナ展覧会へ、カタルーニャ建築・ガウディ研究の日本の権威である早稲田大学教授・入江正之先生とガウディ建築の実測研究の日本の第一人者・田中裕也氏らと共に小生の“J.Ma.Jujol 建築調査研究”紹介展示も招聘を受けた。

2010年冬期にバルセロナへ同行し、調査する機会を有効に共有させて戴いた成果の一部である。

## 謝辞

この稿を書くにあたって、友人で現地在住建築家の田中裕也氏(Gaudí 研究者)に大変ご協力を戴いた。バルセロナ工科大学(U.P.C.)の Juan Mercader Brulles 教授(Jujol 研究)にはジュジョール研究で長年叶わなかった建築作品：Tallers Manyach(1916), Barcelona が改修一部再生保存されている現在の「J.Ma.J.幼児初等教育学校」校舎見学の交渉をして戴き、実現したこと心より感謝申し上げる。とともに、今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げたい。

また、この企画にお声を掛けて戴いた日本建築家協会建築家・北海道工業大学教授・下村憲一先生に感謝申し上げます。日本から Montferri 集落まで御同行戴いた建築家の山之内裕一・菅沼秀樹両氏にもお世話になったこと御礼申し上げます。更に多くの諸先輩友人にも助言を戴いたことを感謝致したい。

Sapporo,Febrero/18/2011



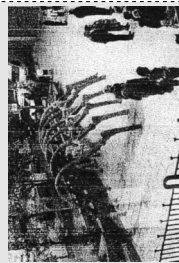
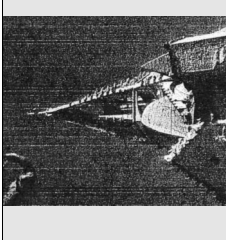
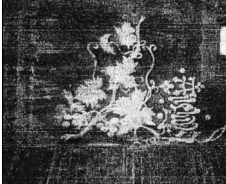
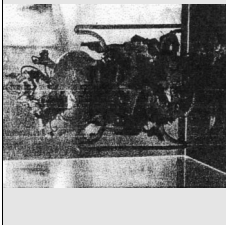



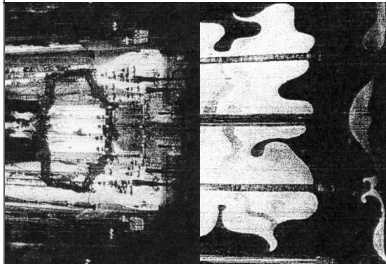
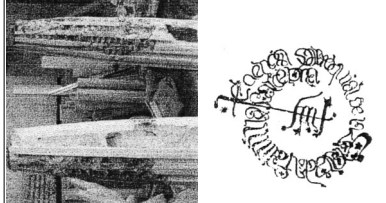
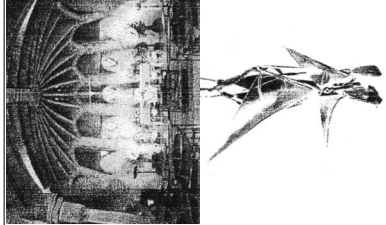
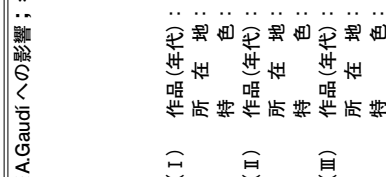

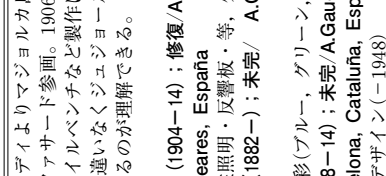
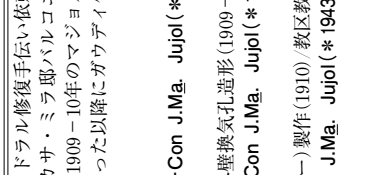
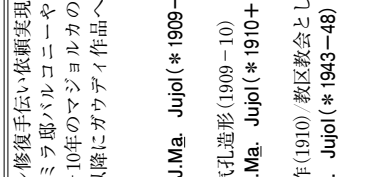
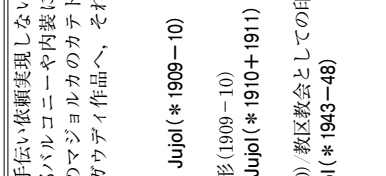
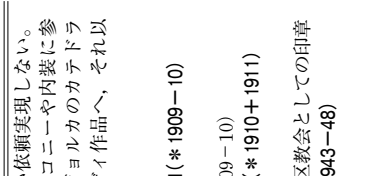
【註】本稿では建築家名以外等の一般名称表記はカステリア(スペイン語)によっている。

【註】「\*」印は著者撮影。その他には出典を記した。

## 参考文献；

- 1) 『ガウディの愛弟子 ジュジョールの夢』SD9904；丹下敏明：Pp3-80鹿島出版会/1999
- 2) 『建築家：Josep Maria Jujol y Gibert』に関する調査研究（Ⅰ）木下泰男：道都大学紀要・美術学部第36号，p67-75/2010
- 3) 『La arquitectura de J.Ma.Jujol』C.Flores,J.Ma.J.hijo,J.F.Rafols,S.Tarrago：C.O.A.C.B.España/1984
- 4) 『アントニオ・ガウディとその師弟たち』SD：特集/9, 田中裕也：p6-144, 鹿島出版会/1988
- 5) 『Josep Ma.Jujol a Sant Joan Despi：1913-1949』M.Duran,Ajuntament de S. J. Despi, España/1988
- 6) 『Josep maria maria jujol,arquitecto.1879-1949』QUADERNS 179-180/C.O. A.C.,España/1989
- 7) 『ジョセップ・マリア・ジュジョール・イ・ジーベルト』入江正之，季刊カラム；No.111,p69-73,新日本製鐵/1989
- 8) 『Camino de Catalunya Modelnismo』Generalitat de Catalunya・Direccio General de Turisme/1990
- 9) 『建築家 Josep Ma.Jujol y Gibert について その1』石川肇・入江正之/p185-188/日本建築学会北海道支部研究報告集 No.62(1989/3)
- 10) 『建築家 Josep Ma.Jujol y Gibert について その2』入江正之・中渡憲彦・石川肇/p189-192/日本建築学会北海道支部研究報告集 No.62(1989/3)
- 11) 『ARQUITECTURA MODERNISTA EN CATALUNA』R.Laquesta/A.Gonzales；GG/Barcelona/1990
- 12) 『ジュジョールに関するリポート（Ⅰ）』木下泰男，美術ペン：82・83・84・85,北海道美術ペンクラブ刊，/1994-1995
- 13) 『Gent NOSTRAJUJOL』77,Joan Bassegoda I Nonell,Caixa Barcelona/1990
- 14) 『ガウディの建築』鳥居徳敏/鹿島出版会/1987
- 15) 『LES NOTICIES DEL JUJOL.』CEIP JOSEP MARIA JUJOL,Col·legi d'Educacio Infantil I Primaria J.Ma. Jujol, /2009
- 16) 『JUJOL』Ignasi de Sola-Morales Ediciones Poligrafa, S.A.,/1990

別表-2. 「スペイン・カタロニアにおける建築家： Josep Ma. Jujol y G. の主な宗教空間表現の特徴的観点一覧表」 2011

トリビューン・Detaile ( ; C.Nergre)				作品・(年代) : Casa Negre, (1915) ; 改修・修復(1991)/Solo J.Ma. Jujol (※町役所)	所 在 地 : Sant Joan Despí, Baix Llobregat, Barcelona, Cataluña,España	特 色 : * ファサードの装飾性と一転内部に用意された礼拝室は、バロック様式的表現や階段室の天空の青一色と天使の表現の落差にこそジュジョールの心理的な神髄が理解できる。そして、ロマネスク様式的絵画表現手法には様々な住民に信仰の理解を印象深く促そうとするジュジョールの配慮なのかもしれない。住民にとつてのコミュニティとしての空間の醸成をいち早く提案したのもとして興味深い。ファサードから飛び出したトリビューンや軒蛇腹とスグライフイドの造形さらに前庭のパーゴラ造形、礼拝室・階段室の信仰への空間づくりに突出した表現と言える。
外観尖塔・Detaile ( ; Vistabella)				作品・(年代) : Iglesia de Vistabella, (1918-23) ; 完成(1923)・補修/Solo J.Ma. Jujol (※Hijo)	所 在 地 : Vistabella, Secuita, Tarragona, Cataluña, España	特 色 : * 方形の平面は対角上に内陣をとり身廊を軸に最大限の広さへの配慮が伺える。ゴシック様式をジュジョールの造形力で凝縮の空水を連続させ、中心へ折り重なるように遠近性を試みている。採光はステンドグラスや少ない開口部から真つ暗な身廊へ豊かな明かりとして注がれる。ハンドメイドに依つたインテリア製品に目を奪われる(ランプ・水差し等)。石と煉瓦と組み合わされた柱やリブアーチを包む壁には総樹や鳴や葡萄、雲母、信仰文字など描き加えられている。小さな集落にとっての念願の完成にジュジョールは住民の協働・労働力を得て答えていたのではないだろうか。
遺構/1989・Detaile ( ; Montferri)				作品・(年代) : Iglesia de Montferri, (1926- ) ; 未完(1930)・再建(1990)/Solo J.Ma. Jujol (※州政府)	所 在 地 : Montferri, Alt Camp, Tarragona, Cataluña , España	特 色 : * 線上集落に並行した丘陵に印象的に配置されたこの教会堂は、イスラム様式のモチーフを用いることで建設の経緯状況の打開や構案の簡便さが図られた。しかし、様式的なジュジョールの表現に昇華させている。ここで用いられた放物アーチは1個のプロットを基準にしての近似値的な造形となっている。そして、「ヴァイスカペーリヤ教会堂」のよう変形ドームを身廊全体を覆う形式ではなく、複数の小規模な放物ドームを束ねる形で身廊を覆っている。柱も多くなるが安定した構造が担保される確実さがわかるのである。職縁を強く連続させた造形は波ともモンセラトも読み取れる。構想当時からの入口は現在には減っている過疎化が進んでいくかゆみの地域信仰に、ジュジョール当初の教会堂の利用貢献に活かされるかが再建後の集落住民らに期待される。
後陣天蓋・壁面・Detaile (I) : 石膏モデル/印・Detaile (II) : 内陣祭壇・照明・Detaile (III)				建築作品表現要素 ( ; Con A.Gaudí)		
				※A.Gaudíへの影響 ; * 1904年ジュジョールの在学中にガウディよりマジョルカ島のカテドラル修復手伝い依頼実現しない。1905-07年にカサ・パトリヨ邸のファサード参画。1906-11年カサ・ミラ邸バルコニーや内装に参画。1907-14年グエル公園の破砕タイルベンチなど製作に参画。1909-10年のマジョルカのカテドラル修復に参画。部分的ではあるが間違いないジュジョールが関わった以降にガウディ作品へ、それ以前の前ムデハール様式から変化しているのが理解できる。		
				(I) 作品(年代) : Catedral de Palma de Mallorca, (1904-14) ; 修復/A.Gaudí+Con J.Ma. Jujol (※1909-10)		
				所 在 地 : Palma de Mallorca, Mallorca, Balears, España		
				特 色 : * 天蓋・内陣 ; 合唱隊席壁面・列柱照明・反響板・等、外部 ; 外壁換気孔造形(1909-10)		
				(II) 作品(年代) : Templo de la Sagrada Familia, (1882-) ; 未完/ A.Gaudí+Con J.Ma. Jujol (※1910+1911)		
				所 在 地 : Barcelona, Cataluña, España		
				特 色 : * バリ万国博覧会展示石膏モデル着彩(ブルー、グリーン、イエロー)製作(1910) 教区教会としての印章		
				(III) 作品(年代) : Iglesia de la Colonia Güell, (1908-14) ; 未完/A.Gaudí+Con J.Ma. Jujol (※1943-48)		
				所 在 地 : Santa Coloma de Cervelló, Barcelona, Cataluña, España		
				特 色 : * 祭壇デザイン(1943-) 照明器具デザイン(-1948)		

① Jujol 作品の宗教建築空間 (1915-1930)

② A.Gaudí との宗教建築空間

① Jujol 作品の宗教建築空間 (1915-1930)

② A.Gaudí との宗教建築空間

# A Research of an Architecture: Josep Ma. Jujol y G./Architect/1879-1949.(Ⅰ) —A Consideration about the religious architecture space of J.Ma.Jujol in Catalonia, Spain—

Yasuo Kinoshita (Hokusho University)

## Abstract

The purpose of research focuses on architect J.Ma.Jujol which achieved the role of traction of the architecture field from the 19th century to the beginning of the 20th century. It is the time of the "Catalonia-modernismo" when art movement was developed in the Catalonia (Spain) area those days, and he can call it the architect who bore the work of A. Gaudí's maturity term and ran through the time. This research stated the end of the generation process of main religious architecture space with the special feature by him, the posture through which the modeling power pierces, and architecture. This investigation summarizes a part of result of research which came 1991, 2000, 2010, and a field survey in piles from 1989.

Key words : Jujol, Cataluña Modernismo, A.Gaudí, Noventinismo, Cataluña arquitecto